

科目名	ソーシャルワーク演習（専門）（社会福祉士必修）		
授業形態	演習	学年	2
開講時期	2023年度 前期～後期	単位数	4
担当教員	佐々木 誠二、木村 淳也		
内容および計画	<p>[授業のねらい] 社会福祉士に求められる知識や技術について、他の科目との関連性も視野にいれ基礎的な能力を涵養する。また、ソーシャルワークの価値と倫理について理解を深め、実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>[授業の概要] ソーシャルワーク関連の講義等と関連させながら、ソーシャルワーク実践の方法を少人数、演習形態により具体的に学ぶ。特に、個別指導や集団指導をとおしての自己理解や相談援助の基礎を学ぶとともに、ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解する。</p> <p>[到達目標] ① ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。 ② 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断ができる。 ③ 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し説明できる。 ④ 地域の特性や課題を把握し解決するため、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解し説明できる。 ⑤ ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解し説明できる。 ⑥ 実習で体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に示すことができる。 ⑦ 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に参加できる。</p>		
1	コミュニティワークの方法（アウトリーチとニーズ把握・地域アセスメント）		
2	コミュニティワークの方法（地域福祉の計画、組織化）		
3	コミュニティワークの方法（社会資源の活用・調整・開発、評価）		
4	援助の方法、技術の理解 ケースの発見とエンゲージメント①		
5	援助の方法、技術の理解 ケースの発見とエンゲージメント②		
6	援助の方法、技術の理解 アセスメント①		
7	援助の方法、技術の理解 アセスメント②		
8	援助の方法、技術の理解 プランニング①		
9	援助の方法、技術の理解 プランニング②		
10	援助の方法、技術の理解 支援の実施とモニタリング①		
11	援助の方法、技術の理解 支援の実施とモニタリング②		
12	援助の方法、技術の理解 支援の終結と結果評価 アフターケア①		
13	援助の方法、技術の理解 支援の終結と結果評価 アフターケア②		
14	援助の方法、技術の理解 ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー①		
15	援助の方法、技術の理解 ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー②		
16	カンファレンスにおけるリーダーシップ（ロールプレイを含む）		
17	スーパービジョン（ロールプレイを含む）		
18	分野別事例の検討による理解と評価（虐待の事例）		
19	分野別事例の検討による理解と評価（ひきこもりの事例）		
20	分野別事例の検討による理解と評価（貧困の事例）		
21	分野別事例の検討による理解と評価（認知症の事例）		
22	分野別事例の検討による理解と評価（終末期ケアの事例）		
23	分野別事例の検討による理解と評価（災害時の事例）		
24	現場実習における事例の作成・検討①		

25	現場実習における事例の作成・検討②
26	現場実習における事例の作成・検討③
27	現場実習における事例の理解と評価（ロールプレイを含む）①
28	現場実習における事例の理解と評価（ロールプレイを含む）②
29	現場実習における事例検討・事例分析のまとめ
30	まとめ

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年

レジюмеを使用します

参考書	『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規、2021. ISBN 978-4-8058-8250-4
-----	---

成績評価

評価方法	割合(%)
受講態度・発表	50
振り返りレポート等	50

学習到達目標	「内容および計画」欄に記載してあります。
先修条件	ソーシャルワーク演習（社会福祉士必修）
実務経験	実務経験あり：児童相談所，地域包括支援センターで勤務した経験をもとに、ソーシャルワークの基礎について教授する（佐々木）。
その他	